

RESAS

を分析してみよう

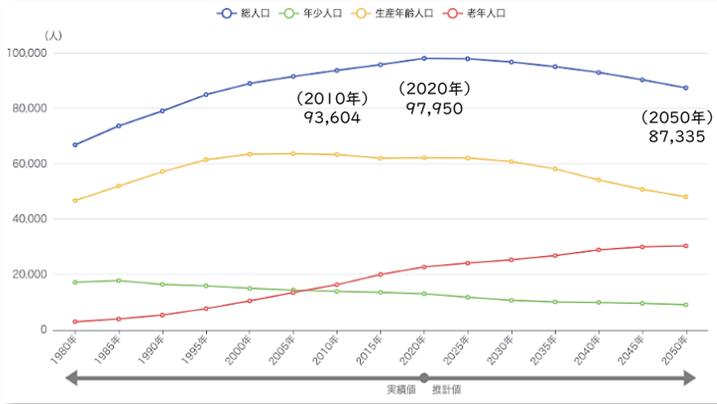
北海道
千歳市

RESAS (地域経済分析システム) は、地域経済に関する様々なデータ (産業の強み、人の流れ、人口動態など) をグラフで分かりやすく「見える化 (可視化)」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

人口

<https://resas.go.jp>

RESAS



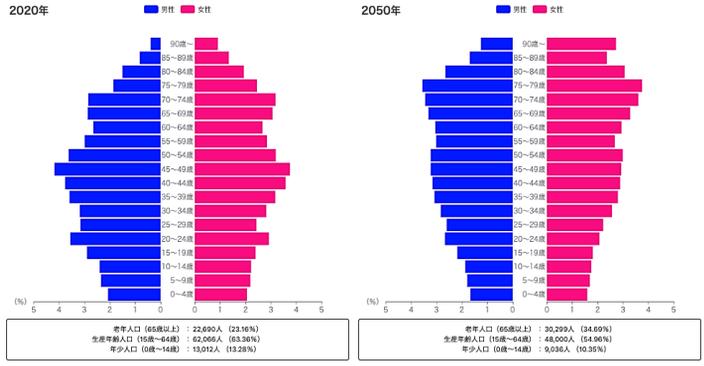
*人口マップ→人口構成→人口推移

年齢別人口推移 (2020年)

千歳市の2020年人口は総人口97,950人。10年前(2010年)の93,604人と比較して増加しているが、今後は減少が続く見込みである。また、年齢別に将来の傾向をみると、年少人口や生産年齢人口は減少傾向、老年人口は増加傾向にあり、老年人口割合が増加する傾向にある。よって、少子高齢化が一層進んでいく地域である。

人口ピラミッド

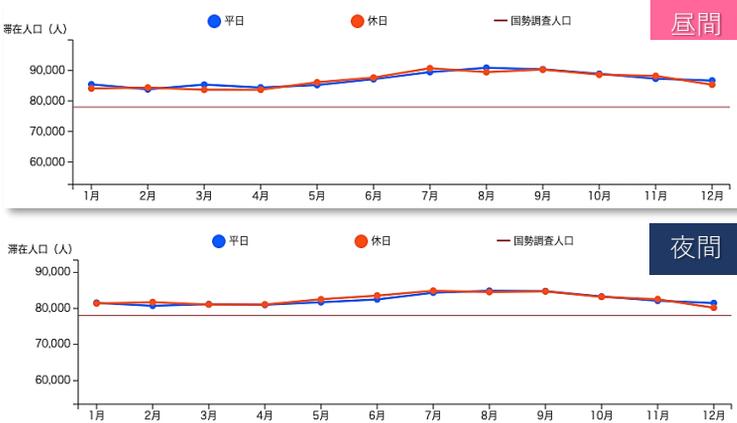
現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。2020年、2050年の人口ピラミッドは共に「つぼ型」である。老年人口の割合をみると、2020年の23.16%から2050年には34.69%まで増加する。また、生産年齢人口は2020年の63.36%から54.96%まで減少する見込みである。



*人口マップ→人口構成→人口ピラミッド

滞在人口

(2022年、上：昼間、下：夜間)



*まちづくりマップ→滞在人口率

滞在人口

(2021年、上：昼間、下：夜間)

昼間人口と夜間人口を月ごとに比較したグラフである。滞在人口を見ると、平日・休日ともに昼間人口の方が夜間人口に比べ多く、通勤・通学者を含め、千歳市から他の市町村への流出口より他の市町村から千歳市への流入人口の方が多いことがわかる。

※昼間は14時、夜間は20時のデータ

産業構造

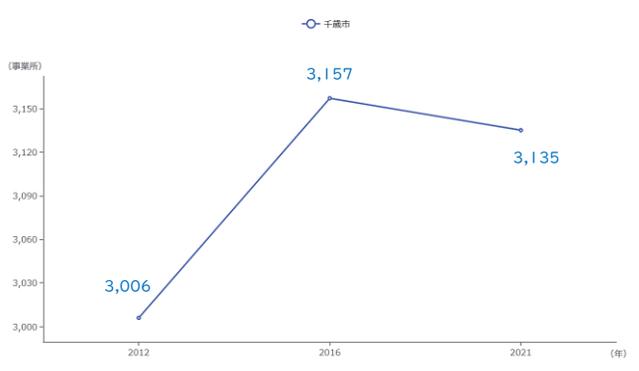
事業所数(事業所単位): 3,135事業所



*産業構造マップ→全産業→全産業の構造

事業所数(事業所単位) 大分類 (2021年)

業種ごとの事業所数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業、小売業」の789事業所で、全体の25.2%を占めている。その後「宿泊業、飲食サービス業」の528事業所16.8%が続く。

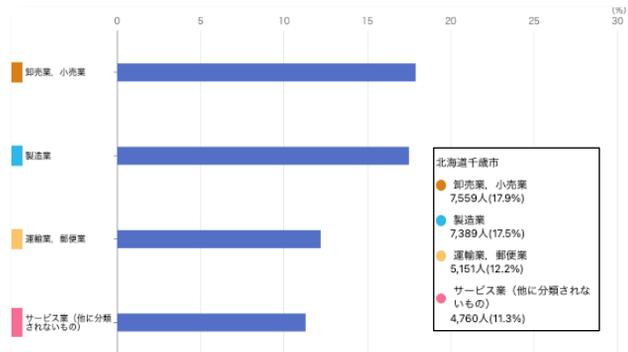


*産業構造マップ→全産業→事業所数

事業所数の推移 (2021年)

事業所数の推移をみる。2021年は3,135事業所であり、5年前の2016年は3,157事業所だったので、比較すると0.7%減少している。

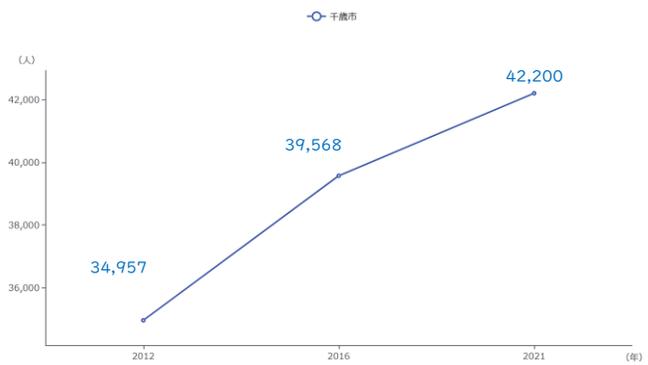
従業者数(事業所単位): 42,200人



*産業構造マップ→全産業→全産業の構造

従業者数 (2021年)

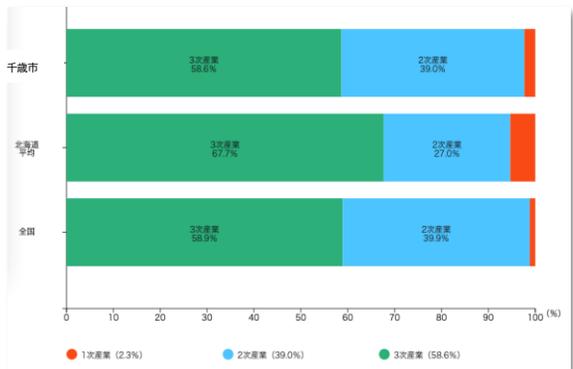
業種ごとの従業者数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業、小売業」の7,559人で、全体17.9%を占めている。その後「製造業」の7,389人の17.5%、「運輸業、郵便業」の5,151人の12.2%が続く。



*産業構造マップ→全産業→従業者数(事業所単位)

従業者数の推移 (2021年)

従業者数の推移をみる。2021年は42,200人、5年前の2016年は39,568人だったので、比較すると6.7%増加している。



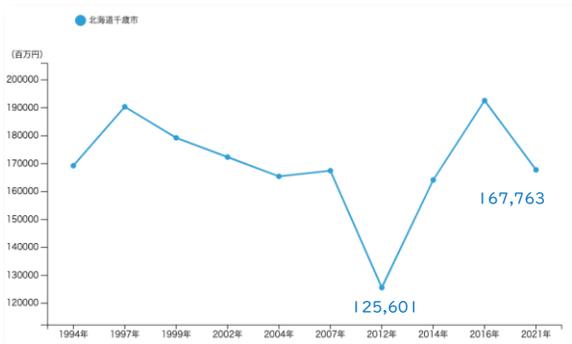
*地域経済循環マップ→生産分析

地域内産業の構成割合

千歳市の産業の構成割合を全国および北海道と比較したグラフである。2次産業の割合39.0%であり、全国の39.9%と比べて若干低い。3次産業の割合は、58.6%と全国の58.9%に比べて若干低い。

*1次産業・・・農業、林業、漁業など
 *2次産業・・・製造業、建設業、工業など
 *3次産業・・・商業、金融業、医療・福祉・教育などのサービス業、外食産業・情報通信産業など

小売業・卸売業



*産業構造マップ→小売・卸売業→年間商品販売額

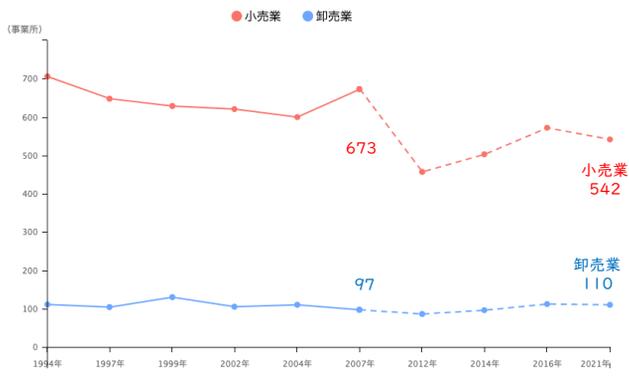
事業所数(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は、小売業542事業所、卸売業110事業所である。2007年と比較すると、小売業は19.5%減、卸売業は13.4%増となっている。

*グラフ上の破線は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「産業統計調査」と「経済センサス活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間の比較が行えないことを示している。

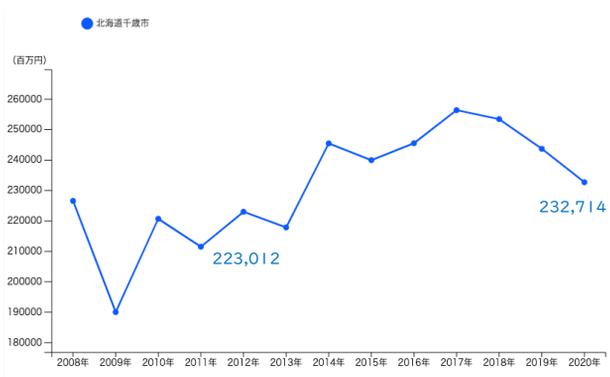
年間商品販売額の推移 (2021年)

小売業・卸売業の年間商品販売額の推移を示したグラフである。2021年の販売額は167,763百万円である。9年前の2012年と比較すると125,601百万円なので、33.6%増である。



*産業構造マップ→小売・卸売業→商業の構造

製造業



*産業構造マップ→製造業→製造品出荷額等

製造品出荷額等の推移 (2020年)

製造業の製造品出荷額等の推移を示したグラフである。2020年製造品出荷額等は、232,714百万円である。8年前の2012年と比較すると223,012百万円なので、4.4%増である。

事業所数 (主要製造業) の推移 (2020年)

主要製造業の事業所数の推移を示したグラフである。2020年は①食品製品製造業、②金属製品製造業が多い。全体の推移をみると、事業所数は①、②共に増加傾向にある。



*産業構造マップ→製造業→製造業の構造

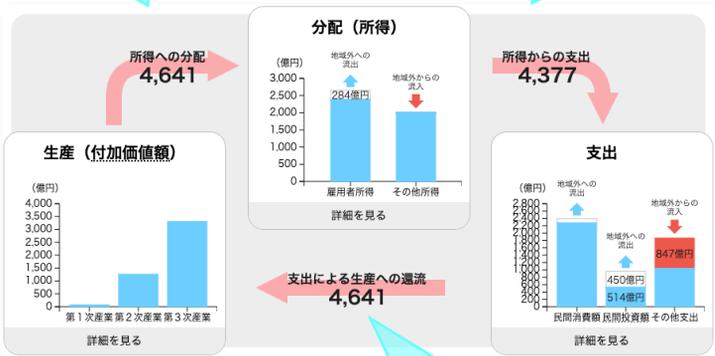
地域経済循環

地域経済循環図 (2018年)

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。

①千歳市の企業は合計4,641億円の付加価値を生み出している。

②付加価値のうち、支出に回されるのは、4,377億円。



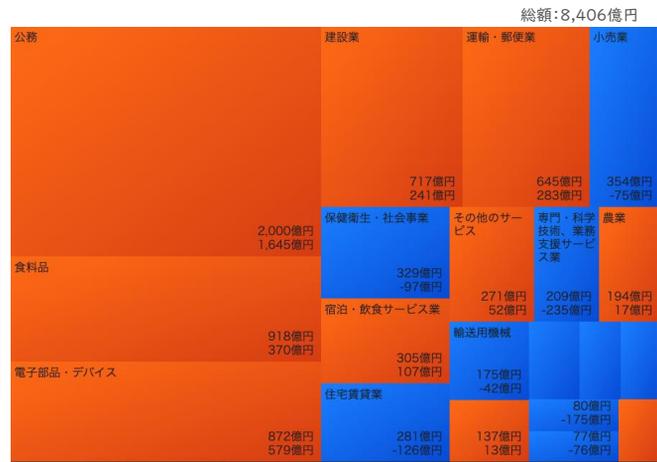
*地域経済循環マップ→地域経済循環図

③市内で支出に使われた金額は4,641億円。市外から市内への流入があるため4,377億円より多い。

生産分析 (2018年)

左図の「生産(付加価値額)」の内訳を面の大きさで示したグラフである。付加価値額が高いのは「公務」、「食料品」、「電子部品・デバイス」である。

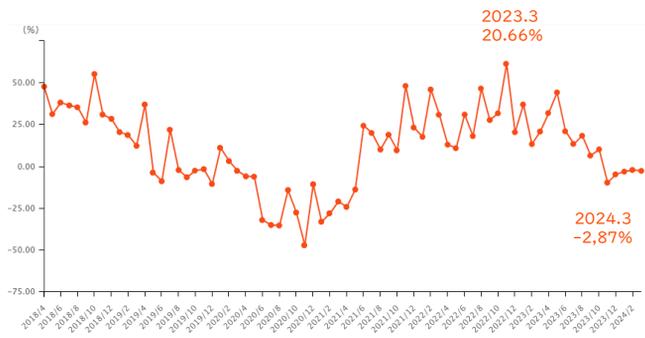
なお、グラフの色は、地域外から稼いでいる産業(赤色)と地域外から必要としているものを調達している産業(青色)を表している。



*地域経済循環マップ→生産分析

上図以外の付加価値額の合算:483億円

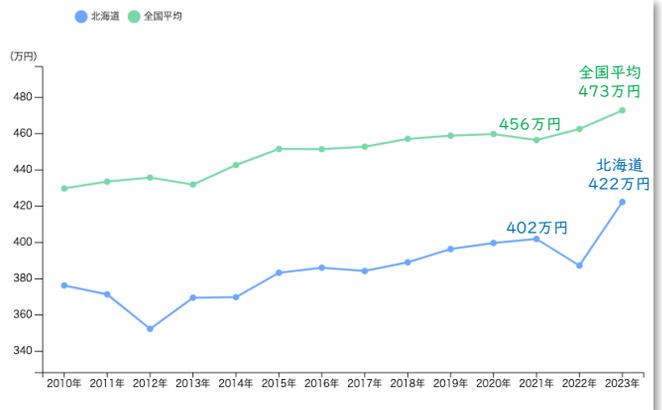
雇用 (北海道)



*産業構造マップ→雇用→求人情報の比較

求人情報数の推移 (前年同月比)

千歳市の求人情報数の推移(事業所単位:前年同月比)を示したグラフをみる。2024年3月は、-2.87%と求人情報数が減少している。1年前の2023年3月は、20.66%増であったが、千歳市内の求人情報は、減少傾向にある。



*産業構造マップ→全産業→一人当たり賃金

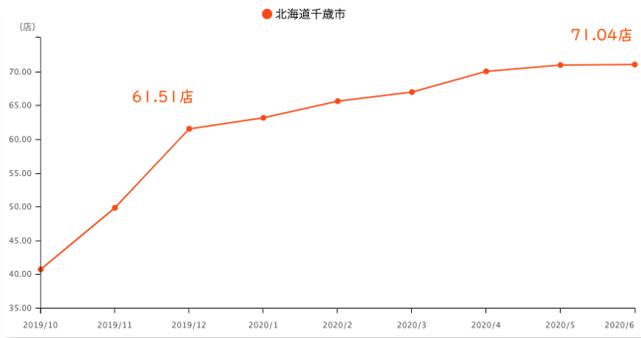
一人当たり賃金 (2023年)

北海道の一人当たりの賃金を全国平均と比較したグラフである。2023年の北海道は422万円であり、全国平均の473万円と比べて低い。2021年の北海道は402万円、全国平均は456万円であり、ともに上がっている。一人当たり賃金の全国順位は26位である。

キャッシュレス

人口1万人当たり加盟店数の推移 (2019年10月～2020年6月)

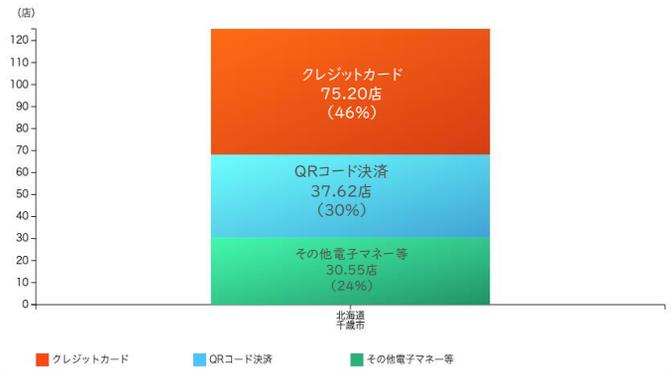
人口1万人当たりのキャッシュレス決済加盟店数の推移を示したグラフである。
2020年6月の店舗数は71.04店舗である。半年前の2019年12月と比較すると61.51店舗なので、15.5%増である。



*消費マップ→キャッシュレス加盟店数(ポイント還元事業)

キャッシュレス手段別区分 (2020年6月)

(人口1万人当たり加盟店数の)キャッシュレス手段別区分を積み上げたグラフである。
「クレジットカード」が75.20店と最も多く46%、続いて「QRコード決済」が37.62店30%、「その他電子マネー等」は30.55店24%となっている。



*消費マップ→キャッシュレス加盟店数(ポイント還元事業)

決済金額の推移 (2019年10月～2020年6月)

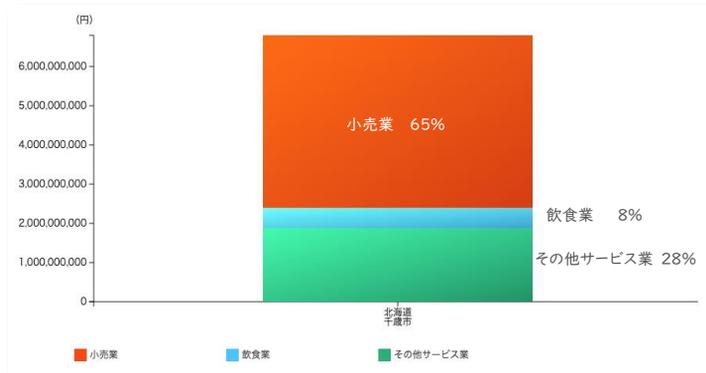
キャッシュレス決済金額の推移を示したグラフである。
2020年6月の決済金額は808,088,362円である。同年1月と比較し816,333,975円なので、1.0%減である。



*消費マップ→キャッシュレス決済データ(ポイント還元事業)

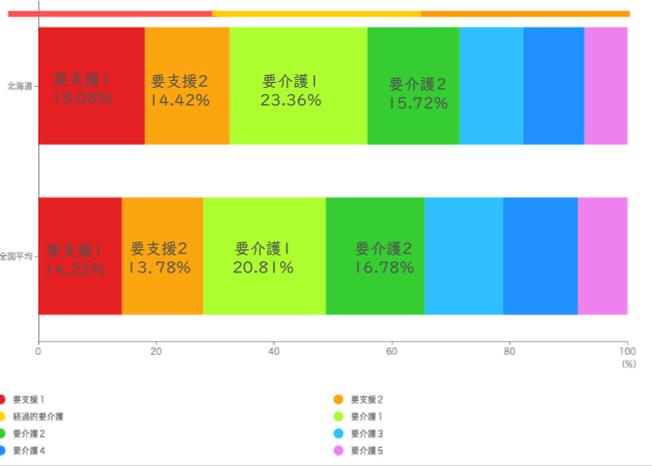
業種大分類別区分 (2019年10月～2020年6月)

決済金額を業種大分類別区分に積み上げたグラフである。
「小売業」が65%と最も多く、続いて「飲食業」は8%、「その他サービス業」は28%となっている。



*消費マップ→キャッシュレス決済データ(ポイント還元事業)

医療・福祉（北海道）



*65歳以上人口10万人あたり

要介護（要支援）認定者数の構成（2021年）

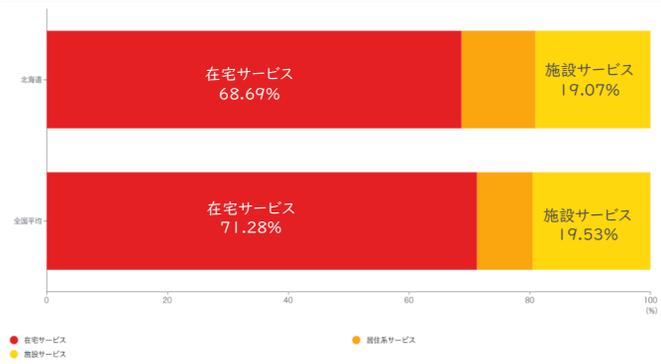
北海道の要介護（要支援）認定者数を種類別で示したグラフである。北海道でもっとも多いのは「要介護1」の23.36%で、全国平均の20.81%よりも高い。その後「要支援1」の18.08%、「要介護2」の15.72%が続く。

*医療・福祉マップ→介護需給

*65歳以上人口10万人あたり

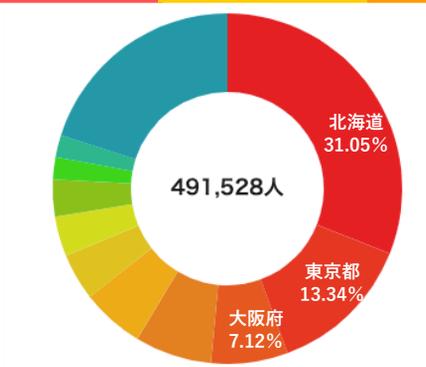
施設・居住系・在宅サービス受給者数の構成（2022年）

北海道の施設・居住系・在宅サービス受給者の構成割合を全国平均と比較したグラフである。在宅サービスの割合が68.69%であり、全国の71.28%と比べるとやや低い。一方、施設サービスの割合は、19.07%と全国の19.53%に比べてやや低い。

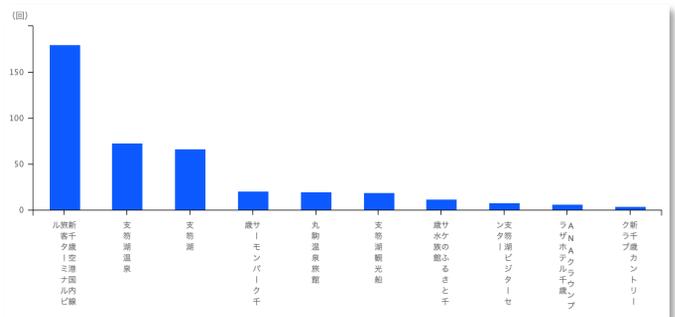


*医療・福祉マップ→介護需要

観光



*観光マップ→From-to分析（宿泊者）



*観光マップ→目的地分析

From-to分析（宿泊者）（2022年）

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合を示したグラフである。北海道が31.05%ともっとも多く、東京都13.34%、大阪府7.12%が続く。

目的地検索ランキング（2023年3月 休日）

カーナビで経路検索された回数が多い場所をランキング形式で示したグラフである。「新千歳空港国内線旅客ターミナルビル」「支笏湖温泉」「支笏湖」の検索回数が多い。

発行：千歳商工会議所
〒066-8558 北海道千歳市東雲町3-2-6
TEL: 0123-23-2175 FAX: 0123-22-2122
URL: <https://www.chitose-cci.or.jp/>

